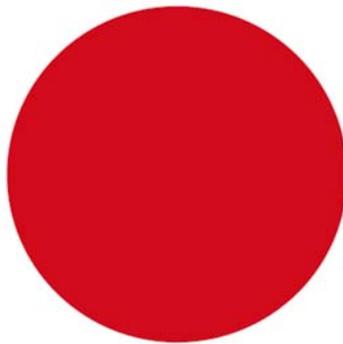


日本遺産

木曾路はすべて山の中
～山を守り 山に生きる～



JAPAN HERITAGE

木曾地域文化遺産活性化協議会

《平成28年4月25日認定》

日本遺産とは？

1. 主旨と目的

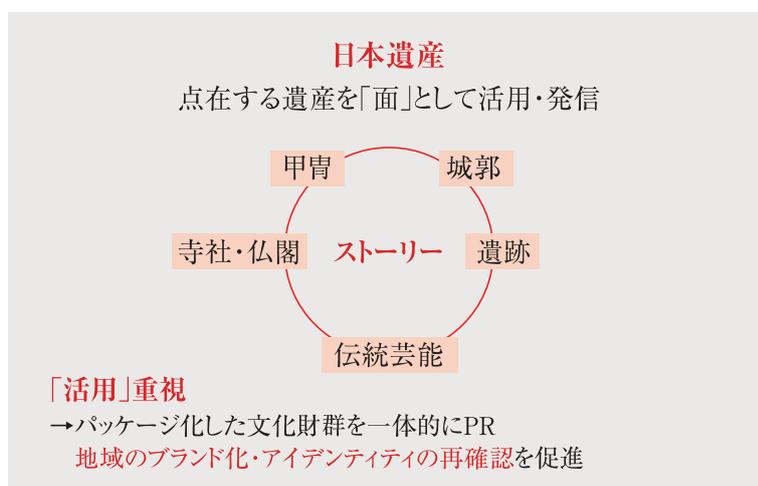
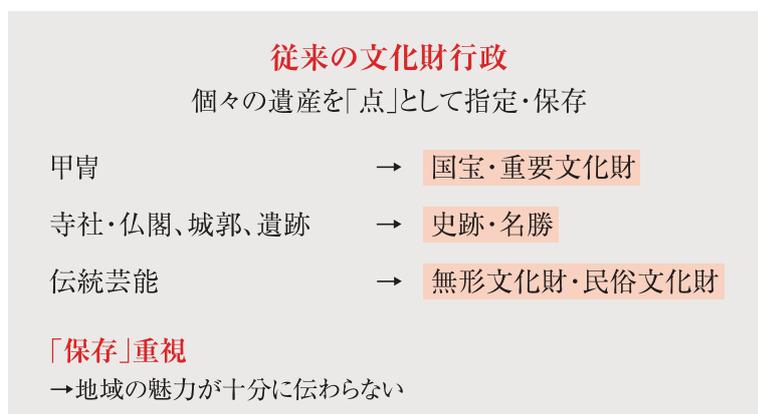
我が国の文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るためには、その歴史的経緯や、地域の風土に根ざした世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたストーリーの下に有形・無形の文化財をパッケージ化し、これらの活用を図る中で、情報発信や人材育成・伝承、環境整備などの取組を効果的に進めていく必要があります。

文化庁では、地域の歴史的の魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援します。

2. 日本遺産事業の方向性

日本遺産事業の方向性は次の3つに集約されます。

- ①地域に点在する文化財の把握とストーリーによるパッケージ化
- ②地域全体としての一体的な整備・活用
- ③国内外への積極的かつ戦略的・効果的な発信



木曾路はすべて山の中 ～山を守り 山に生きる～

この度、長野県木曾地域が文化庁の定める「日本遺産」に認定されました。これは長野県では初めての認定です。

「日本遺産」は地域の歴史的魅力が文化・伝統を伝えるストーリーとして認定され、その有形・無形の文化財を整備・発信することで地域の活性化を図るものです。地域の魅力を日本全体の魅力として発信していくことができます。今回認定された木曾地域のストーリーは以下の通りです。

【ストーリーの概要】

戦国時代が終わり新たな町づくりがすすめられると、城郭・社寺建築の木材需要の急増は全国的な森林乱伐をもたらした。森林資源が地域の経済を支えていた木曾谷も江戸時代初期に森林資源の枯渇という危機に陥る。所管する尾張藩は、禁伐を主体とする森林保護政策に乗り出し、木曾谷の人々は、新たな地場産業にくらしの活路を見出した。

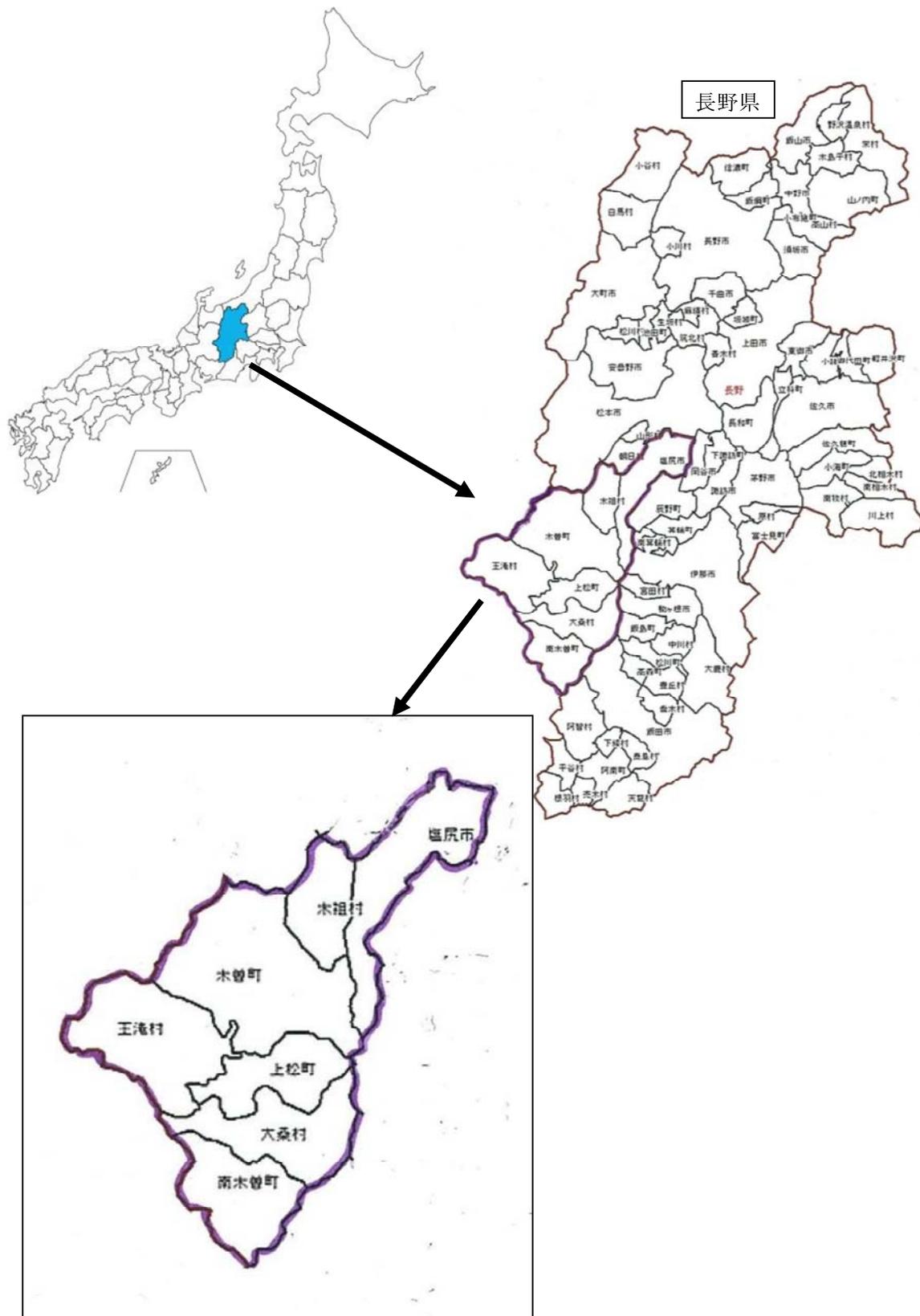
そして、江戸時代後期、木曾漆器などの特産品は、折しも街道整備がすすみ増大した御嶽登拝の人々などによって、宿場から木曾路を辿り全国に広められた。

江戸時代、全国に木曾の名を高めた木曾檜や木曾馬、木曾漆器などの伝統工芸品は、今も木曾谷に息づく木曾の代名詞である。

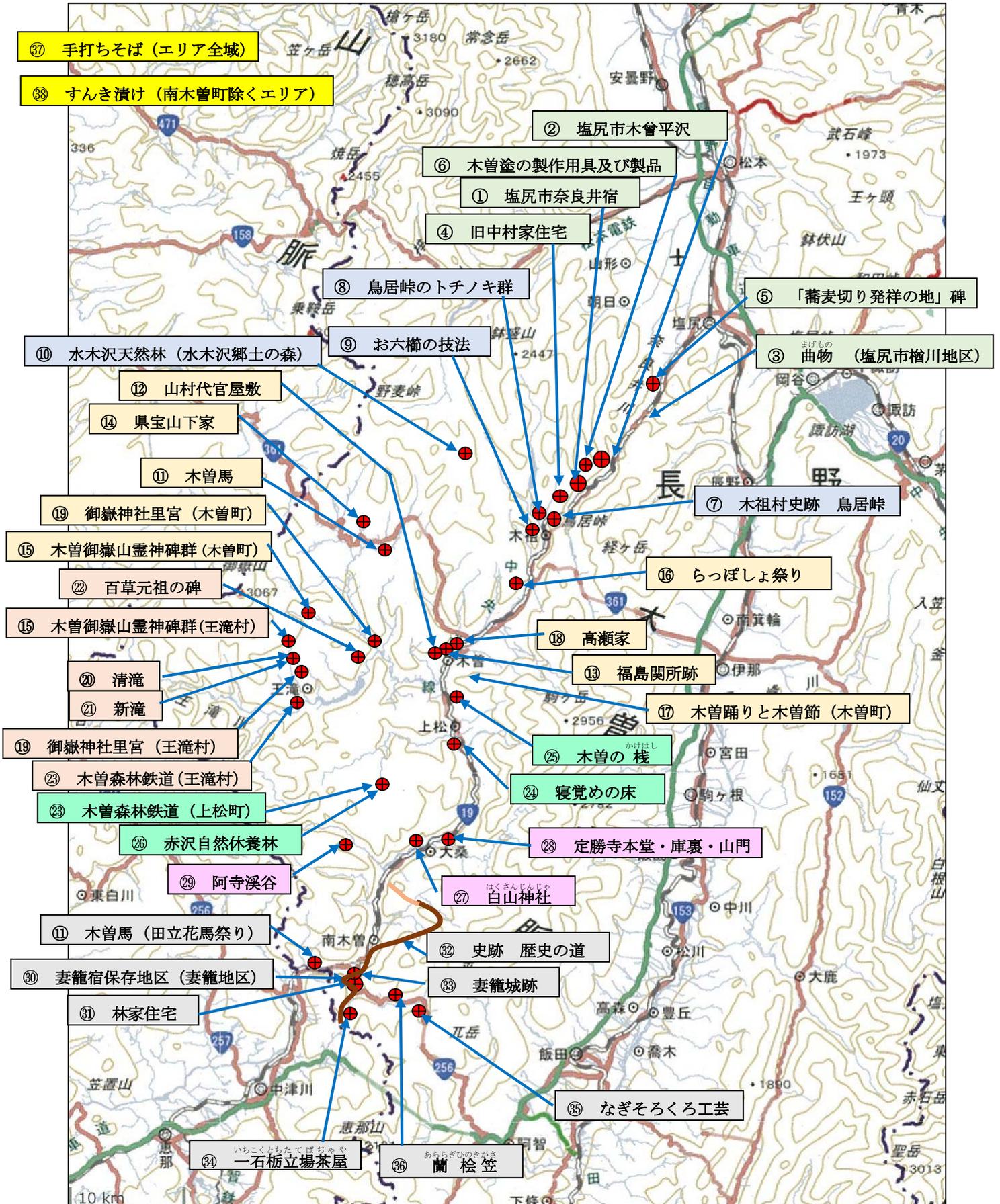


つまごじゆく
【妻籠 宿 保存地区】

市町村(エリア)の位置図(地図等)



構成文化財の位置図（地図等）



出典：国土地理院ホームページ (<http://map.gsi.go.jp/>) 地理院地図を加工して作成

詳しい位置は、各市町村観光HP等でご確認ください。(塩尻市、木祖村、木曾町、王滝村、上松町、大桑村、南木曾町)

ストーリー

(1) 木曾地域と木年貢

長野県南西部、塩尻市から木曾郡にかけての木曾地域は、総面積1,836k㎡と小さな県に匹敵する広さを有する。遥かに仰ぐ御嶽山は「古より魂の還る霊山」として人々の信仰をあつめ、その裾野を流れる木曾川は檜の山林と奇岩の溪谷を映し、木曾川沿いに街道木曾路が続く。

木曾路を包む木曾谷の約9割は森林地帯である。豊臣秀吉の時代、木曾地域は、狭い耕地の作物だけでは領民を養えない地域として、領民は米年貢（米の年貢）の代わりに木年貢（木の年貢）が課され、領民には木年貢を納めることで米が支給された。木年貢は、米が経済の基礎であった江戸時代になっても踏襲され、森林資源が木曾地域の人々の暮らしを支えていた。



妻籠城跡から見た妻籠宿(南木曾町)

(2) 木材需要の増大による森林資源の枯渇と厳しい森林保護政策

「木曾のナー なかのりさん 木曾のおんたけ ナンチャラホイ」と歌われる木曾節の「なかのりさん」とは檜を筏に組んで川を下る筏師のことだという。木曾檜は、木曾谷の代名詞ともいえる産業である。木目が緻密で優良な木曾檜は、鎌倉時代に造られた木曾谷最古の神社である白山神社など、古来神社仏閣建築に重用され、約330年前から、伊勢神宮が20年に1度、お宮を新たに建て替える式年遷宮の際に用いる御神木としても使われ続けている。



白山神社(大桑村)

この名木に危機が訪れたのは、江戸時代初期のことであった。戦国時代が終わり、安土・桃山時代以降、新たな町づくりが進められると、城郭・社寺建築の木材需要が急増し、全国的な森林乱伐をもたらした。江戸幕府から良材の無尽蔵の宝庫と目された木曾谷は、江戸・駿府・名古屋の城と城下町などの建設のために膨大な用材が伐り出され、深刻な森林資源の枯渇に陥ったのである。

木曾谷を所管する尾張藩は、江戸時代初期から木曾檜などの伐木への制限に乗り出した。この制限は、江戸時代中期には木曾谷のほぼ全域に及び、「木一本首一つ 枝一本腕一つ」といわれたヒノキなど木曾五木を伐れば死罪という徹底した森林保護となり、木年貢も廃止された。この施策は、山林乱伐を防ぐ森林保護政策の先駆であったが、森林資源で暮らしを立てていた木曾の領民にとっては厳しい経済統制となった。

(3) 木曾領民の暮らしを支えた地場産業

森林保護政策により山での採集を制限された木曾領民には、木曾の風土に根ざした地場産品の生産が奨励された。

木曾代官4代目山村良豊は、奥州から良馬の南部馬を買い入れ、木曾地域の風土に合う山坂に強い木曾馬に改良して、農民に飼育させることを奨励した。また、禁伐を課す代わりに領民の既得権として藩から村に支給される御免白木（使用が許可された材木を割って半製品にした材料）を利用したの曲物、漆器、お六櫛などの工芸品や木材加工、養蚕、生糸業、さらに御嶽山修験者から地元の人々に伝授された山野の薬草の製薬技術による「百草」製造などを地場産業として積極的に奨励した。地場産品と整備の進んだ中山道の流通経済を活かして産業振興を図ったのである。

木曾馬は、性格がおとなしく小型であるため女性でも世話できる農耕馬であり、馬市で売り買いされるだけでなく、領民の農耕・運輸にも大いに役立ち、江戸時代後期には領内に数千頭の木曾馬が飼育されていた。また、陶器に比べ軽く壊れにくい木工品や漆を施し耐久性を高めた漆工品は、木曾路を辿り全国に広まった。

こうして発展した木曾谷の地場産業は、江戸時代中期以降、領民の暮らしを支えた。



木曾馬と御嶽山(木曾町)



お六櫛(木祖村)

(4) 賑わう宿場の形成と地場産品の流通

木曾路は、鎌倉・室町時代までには信濃と京都・伊勢などを結ぶ重要な通路として発展していたが、江戸時代には、五街道の一つ中山道の街道整備とともに木曾 11 宿といわれる宿場が発達した。寝覚の床、棧、鳥居峠から遙拝する御嶽山など木曾谷の情景は、訪れた多くの俳人や浮世絵師などを惹きつけ、詩歌や版画となって世に知られるようになった。

宿場は訪れる人々を迎えることによる経済的利益の他に、木曾馬や木工品など地場産品の需要をもたらす生産・販売・運輸の拠点として賑わい、木曾谷の経済を牽引した。

奈良井宿は、幕府関係の公用旅行者や参勤交代の大名通行のために人馬を常備し、輸送・通信などの業務を負う代わりに一般の通行に対する独占的な稼ぎが許され、多くの旅行者の宿泊・休息のための旅籠や茶屋などが設けられていた。江戸時代中期には、宿場の規模は南北約 1 km に及び「奈良井千軒」と謳われ、常時 2000 人以上が働いていた。これは、宿場に職人町も構えていたためであり、奈良井宿は、木曾谷住民に許された御免白木 6000 駄のうち 1500 駄（1 駄は馬 1 頭が運ぶ荷物の量、約 135 kg）もの材料が割り当てられ、檜物細工や塗物、塗櫛などを多く産し、近くの漆工町木曾平沢とともに地場産業の木工品や漆工品の名産地になった。

妻籠宿は室町時代、木曾義仲の子孫義昌が木曾谷の南の備えとして整備した山城妻籠城の麓に形成された。江戸時代中期、規模は南北約 250m 程と 11 宿中最小ではあるが、人口は 400 人を超えた。これは、31 軒もの旅籠と地場産業に従事する人口が多かったことによる。江戸時代初期には宿場近くに木地師と呼ばれる「ろくろ細工」職人の集落があり、木工品の産地であったが、江戸時代中期、森林保護政策が強化されると村の庄屋が尾張藩に請願して檜物細工の御免白木の許可を得て、網笠の地場産業をおこした。農家の女性たちの手作業による蘭 桧 笠は、旅行者や僧侶の移動、農作業、茶摘み、舟下り、漁業、林業、土木など広範囲の用途に晴雨にかかわらず着用されたため、木曾路を通じて全国に広まった。

江戸時代中期、街道整備がすすみ庶民の御嶽登山が盛になると、全国から多くの御嶽山信仰の人々が訪れた。訪れた信者の数は、登山道沿いなどに建てられた霊神碑が数万基にのぼることからもその規模の大きさがわかる。御嶽山と木曾路を行き来する人々によって、木曾谷の流通はさらに促進された。室町時代以来、御嶽山麓の修験者が携帯したといわれる「そば」は御嶽山麓開田の特産となり、登拝のために訪れた人々などによって、木曾谷の地場産品や薬「百草」などとともに宿場から木曾路を辿り全国に広められた。

近代に入り、御嶽山麓の森林鉄道に木曾檜を満載した列車が走る。木曾谷の人々が守り続けた木曾檜は、再び木曾の代名詞として蘇った。そして、農家や職人町、宿場など木曾谷のあらゆる人々がそれぞれの生業を活かして発展させた地場産業は、全国に名高い在来馬や伝統工芸品などに結実した。

文豪島崎藤村の『夜明け前』は「木曾路はすべて山の中」で始まる。木曾谷の山と木曾路は、木曾谷の人々の「山を守り、山に生きる」暮らしを育んだ。その暮らしは、森林の保護、木曾路や宿場の保存、伝統工芸品の伝承を大切に思う心を培い、今も木曾谷に息づいている。



寝覚めの床（上松町）



奈良井宿・江戸時代絵図（左）と現在写真（右）（塩尻市）



妻籠宿の町並み（南木曾町）



蘭桧笠製作（南木曾町）



霊神碑（王滝村）

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	しおじりしならい 塩尻市奈良井	国重伝建	中山道の難所の一つ、鳥居峠の北麓にあたる重要な宿場町であり、檜物細工や漆器、塗櫛等の手工業が盛んで、現在も町のつくりや家並みは当時の面影を色濃く残す。	塩尻市
②	しおじりしきそひらさわ 塩尻市木曾平沢	国重伝建	檜物細工や漆器の生産によって生計を立てる産業の町。店舗をはじめとして塗蔵等の作業場や職人の住まい等、漆器業にまつわる建物が建ち並ぶ。	塩尻市
③	まげもの 曲物	県知事指定 伝統工芸品	木曾桧を木理に沿ってへぎ、熱湯浸漬により曲げ加工を行い、そば道具や茶道具等を作る。	塩尻市
④	きゅうなかむらけじゅうたく 旧中村家住宅	市有形	奈良井にある櫛問屋で、もと櫛職人であった中村利兵衛の住まい。お六櫛等を商った。	塩尻市
⑤	そばき 「蕎麦切り発祥の地」	未指定	本山宿に建立。木曾谷が蕎麦の特産地であることを示している。	塩尻市
⑥	木曾塗の製作用具及び 製品	国有形民俗	木曾漆器館では、何世代にもわたって受け継がれ磨きぬかれた伝統技術の技を職人による実演で見ることができ、塗り箸の体験ができる。	塩尻市
⑦	きそむらしせき とりいとうげ 木祖村史跡 鳥居峠	村史跡名勝天 然記念物	松尾芭蕉が訪れ「ひばりより 上にやすろう峠かな」の句碑がある。御嶽遥拝所があり、霊神碑や神像が立ち並ぶ。	木祖村
⑧	とりいとうげ とちのきぐん 鳥居峠のトチノキ群	村史跡名勝天 然記念物	松尾芭蕉が訪れ「木曾の栃うき世の人の土産かな」の句碑がある。樹洞に入れた子が元気に育った言い伝えから、木の皮を煎じて飲めば子宝に恵まれるという言い伝えがある。	木祖村
⑨	ろくぐし ぎほう お六櫛の技法	県選択 無形文化財	お六櫛の名の起りは、頭痛もちのお六が、家の近くのミネバリの樹を櫛にして髪を梳いたことにより全快した伝説による。現在の主生産地が藪原である。実演見学や体験もできる。	木祖村

⑩	みずきざわてんねりん 水木沢天然林 (水木沢郷土の森)	未指定 (現中部森林管理局との保存協定)	江戸時代、城や城下町を造るために木曾山の木が皆伐された後、僅かに残された木から自然に種が芽生え、現在の森が形成された。現在樹齢約550年の大さわらを始め、300年以上のヒノキやブナ、ミズナラ、トチノキなど針葉樹と広葉樹が混交する森林。	木祖村
⑪	きそうま 木曾馬	県天然記念物	北海道の道産子や宮崎県の御崎馬と並ぶ日本在来馬種で開田高原に「木曾馬の里」がある。 南木曾町に伝わる五穀豊穡に感謝する「田立の花馬祭」では木曾馬が集落を練り歩く。	木曾町 南木曾町
⑫	やまむらだいかんやしき 山村代官屋敷	町建造物	江戸時代、木曾谷に地場産業を奨励した代官山村家の屋敷。山村家は、約280年間、木曾谷の代官を務めた。	木曾町
⑬	福島関所跡	国史跡	日本三大馬市が開かれていた木曾福島にある関所。木曾馬はこの地で売り買いされていた。	木曾町
⑭	県宝山下家	県宝	木曾馬馬主で知られる山下家は、馬主で沢山の馬を所有していて農家に貸し与えていた。農家は、仔馬を育てることで収入を得ていた。	木曾町
⑮	きそ おんたけさんれいじんひ 木曾御嶽山霊神碑群	未指定	御嶽講の人々により死後魂が御嶽に還るよう願って建てられた石碑群	木曾町 王滝村
⑯	らっぽしょ祭り	町指定無形	本来は山吹山麓の徳音寺集落の子供たちのお盆行事で、木曾馬に乗った木曾義仲の武者も町を練り歩く。	木曾町
⑰	木曾踊りと木曾節	町指定無形	全国に知られる木曾踊りは、木曾義仲の供養のために行われるが、木曾節は「おんたけ節」に筏師の労働歌「なかのりさん節」などを取り入れたもの。	木曾町
⑱	高瀬家	未指定	「木曾路はすべて山の中である」で有名な文豪島崎藤村の姉である園の嫁ぎ先で、高瀬家は、山村代官の家臣で代々関所番を務めた。	木曾町
⑲	おんたけじんじやさとみや 御嶽神社里宮	未指定	室町時代後期頃から信仰を集め、江戸時代には御嶽山頂に祀られた御嶽山座王大権現の里社として全国にその信仰が広まった。	王滝村 木曾町
⑳	きよたき 清滝	未指定	江戸時代、水行だけの軽精進でも御嶽登拝ができるようになり、庶民の信仰も集め、木曾谷を訪れる人を増加させた。	王滝村

⑳	新滝 しんたき	未指定	清滝と同じく、御嶽山修験者が修行する場所で、木曾谷を訪れる人を増加させた。滝裏に小さな岩祠があり、滝を裏側から見るできるので裏見滝とも呼ばれる。	王滝村
㉑	百草元祖の碑 ひやくそうがんそ	未指定	「百草」は、三岳黒沢口を開いた尾張の行者・覚明（かくめい）と、王滝口を開いた武蔵国の行者・普寛（ふかん）によって伝授されたといわれ、御嶽信仰の普及とともに、「御神薬」として行者たちによって全国の信者に配布されるようになったと伝えられる。	王滝村
㉒	木曾森林鉄道	未指定	木曾森林鉄道の中核をなした森林鉄道で、今も観光用に樹齢300年の天然林が茂る森林浴発祥の赤沢自然休養林の中を走り抜けている。なお、森林鉄道は木曾谷一帯に建設された。	王滝村 上松町
㉓	寝覚の床 ねざめ	国指定名勝	木曾八景のひとつ。木曾路を通る旅人が訪れ、数々の歌を詠んだ。松尾芭蕉も訪れ「ひる顔に ひる寝せふもの床の山」の句碑がある。奇岩の溪谷美の景観と浦島太郎伝説で知られる。	上松町
㉔	木曾の棧 かけはし	県指定名勝	木曾八景のひとつ。松尾芭蕉が訪れ「かけはしや 命をからむ 蔦かつら」の句碑がある。	上松町
㉕	赤沢自然休養林 あかさわしぜんきゅうようりん	未指定	古来から檜などの良質な木材を産出し、伊勢神宮の式年遷宮の際にはここから選定された御神木が用いられる。森林が保護された森林浴発祥の地。	上松町
㉖	白山神社 はくさん	国重文	元弘4年（1334年）に建立され、白山神社、熊野神社、伊豆神社、蔵王神社の4社殿が鎮座し、現存する社殿建築としては信濃最古のもの。	大桑村
㉗	定勝寺本堂・庫裏・山門 じょうしょうじ	国重文	定勝寺で金永という人物が、そば切りを振舞ったという、日本で一番古い文献があり、木曾谷が蕎麦の特産地であることを示している。	大桑村
㉘	阿寺溪谷 あてらけいこく	未指定	ヒノキ・サワラ・ネズコ・アスナロ・コウヤマキの木曾五木に囲まれた溪谷で、美しい木曾檜の林がある。	大桑村
㉙	妻籠宿保存地区 つまごじゆく	国重伝建	江戸から42番目の宿場として慶長6年（1601）に制定され、江戸期を通じて宿駅としての機能を果たしてきた。宿場景観地区は、江戸期の趣を今も色濃く残した宿場町。	南木曾町

③①	はやしけ 林家住宅	国重文	妻籠宿で、代々、脇本陣・問屋を勤めてきた。将軍家茂の御簾中として御降嫁した皇女和宮が、中山道ご通行の折本陣で御小休したが、その際拝領した車付長持をここで見る事ができる。	南木曾町
③②	史跡 歴史の道	国史跡	中山道は、慶長7年(1602)に徳川家康により五街道の一つとして、江戸から京都までの重要な街道として整備された。馬籠峠から根の上峠までの総延長19.6kmのうち、中山道の旧態が良く残っている8.5kmが史跡。	南木曾町
③③	つまごじょう 妻籠城跡	県史跡	戦国時代に整備された城跡。慶長5年(1600年)の関ヶ原の戦いの時も妻籠城に軍勢が入っている。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。	南木曾町
③④	いちこくとちたてばちや 一石枋立場茶屋	未指定	中山道沿いにある一石枋は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えたところ。現存する建物で無料休憩所として旅する人を温かくもてなす。	南木曾町
③⑤	なぎそろくろ工芸	国指定 伝統的工芸品	厚い板や丸太をろくろで回転させながらカンナで挽いて形を削り出す伝統技術。「木地師の里」で実演を見ることができる。	南木曾町
③⑥	あらいぎひのきがき 蘭 桧 笠	県指定 伝統的工芸品	寛文2年(1662)に飛騨の落辺から来た人によって技法が伝えられた、(桧を薄く削って細長い短冊状にした)「ひで」で編まれた手作りの笠。「笠の家」で実演をみることができる。	南木曾町
③⑦	手打ちそば	県選択 無形民俗文化財	御嶽山修験者に所縁のある「そば」は開田高原特産となった。木曾谷は「そば切り」の草分けの地といわれる。	木曾谷全域
③⑧	すんき漬	県選択 無形民俗文化財	御嶽山麓が海から遠く、塩の調達が難しいため、木曾町などでかぶを漬けて発酵させ、塩を使わず酸味を旨味として食べる食文化がうまれた。芭蕉一門も食し、「木曾の酢茎に春も暮れつつ」と門人が詠んだ。そばと合わせて食べる「すんきそば」や「とうじそば」は、木曾谷の冬の風物詩になっている。	木曾町 王滝村 木祖村 上松町 大桑村 塩尻市

構成文化財の写真一覧

① しおじりしならい
塩尻市奈良井



② しおじりしきそひらさわ
塩尻市木曾平沢



③ まげもの
曲物



④ きゅうなかむらけじゅうたく
旧中村家住宅



⑤ 「蕎麦切り発祥の地」碑

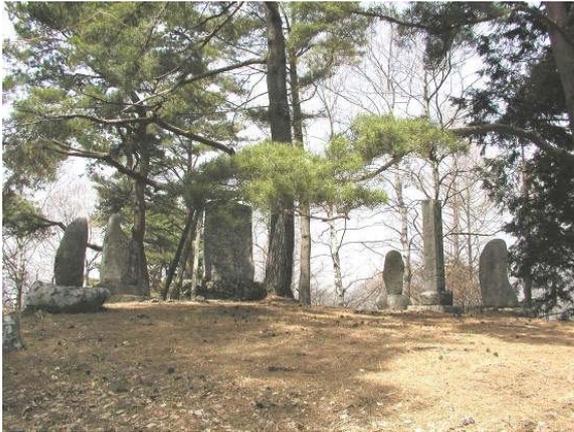


⑥ 木曾塗の製作用具及び製品



(木曾漆器)

⑦ 木祖村史跡 とりいとうげ 鳥居峠



(峠から御嶽山を望む)

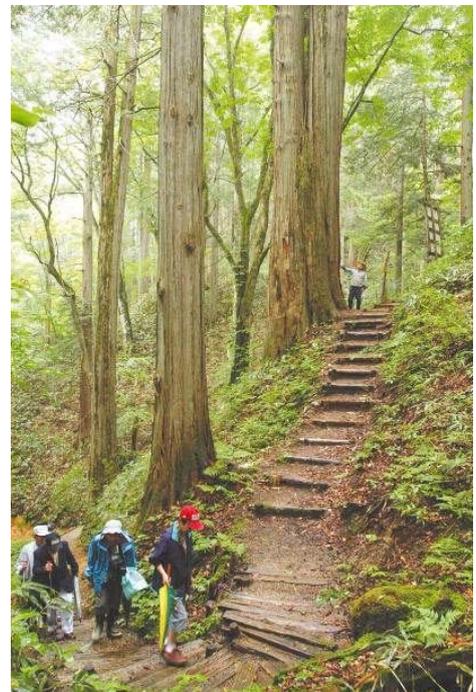
⑨ お六櫛の技法



⑧ 鳥居峠のトチノキ群 とりいとうげ



⑩ 水木沢天然林 (水木沢郷土の森) みずきさわてんねんりん



⑪ 木曾馬



(木曾町開田高原 木曾馬の里)



(南木曾町 田立花馬祭り)

⑬ 福島関所跡



⑫ 山村代官屋敷



⑭ 県宝山下家



⑮ きそ おんたけさんれいじん ひ
木曾御嶽山霊神碑群



(木曾町)



(王滝村)

⑯ らっぽしよ祭り



⑰ 木曾踊りと木曾節



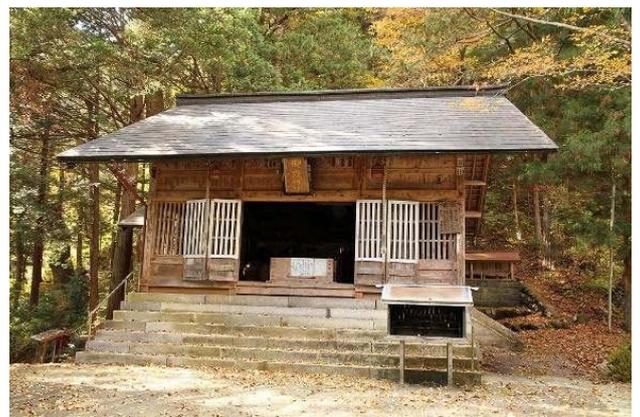
⑱ 高瀬家



⑲ おんたけじんじまきとみや
御嶽神社里宮



(王滝村)



(木曾町)

⑳ きよたき
清滝

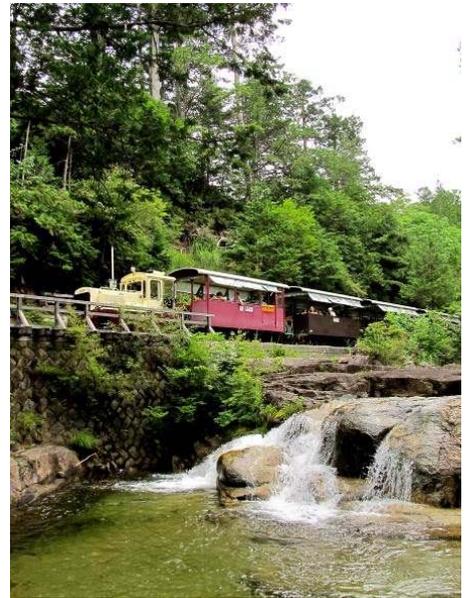


㉓ 木曾森林鉄道



(玉滝村松原スポーツ公園内)

㉑ しんたき
新滝



(赤沢自然休養林内)

㉒ ひやくそうがんそ
百草元祖の碑



②④ ねざめ 寝覚めの床



②⑦ はくさんじんじや 白山神社



②⑧ じやうしやうじ 定勝寺



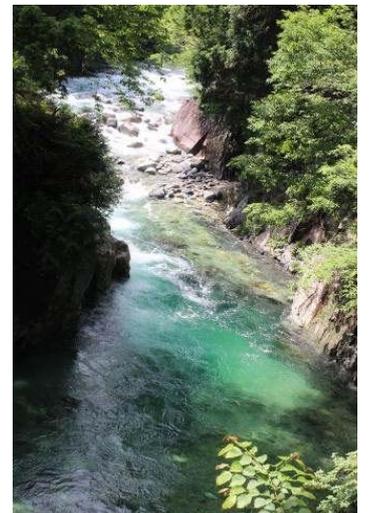
②⑤ かけはし 木曾の棧



②⑨ 阿寺溪谷



②⑥ あかざわしぜんきやうりん 赤沢自然休養林



③⑩ つまごしゆく
妻籠宿 保存地区



③⑪ 林家住宅



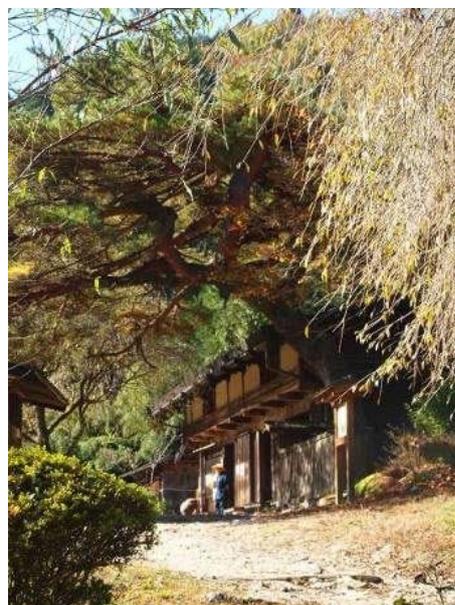
③⑫ 史跡 歴史の道



③⑬ つまごじょうあと
妻籠城跡



③⑭ いちこくとちたてばちや
一石枋立場茶屋



③⑤ なぎそろくろ工芸



あららぎひのきがき
③⑥ 蘭 桧 笠



③⑦ 手打ちそば



(とうじそば)

③⑧ すんき漬け

